



東京都認証 特定非営利活動法人

日本プロフェッショナルエンジニア協会
Japan Society of Professional Engineers



Future begins with engineers and JSPE

ホーム
Home

JSPEについて
About JSPE

技術倫理
Ethics

イベントカレンダー
Events

刊行物
Publications

[最新情報Home](#)

第10回Engineers' Salon

- ・テーマ 「海外の技術者との交流」
- ・日時 11月19日（水） 19時～21時
- ・参加者 10名（幹事）福土、神野
- ・場所 神谷町オフィス
- ・内容

講師にお呼びしたMr.カラカスはカルフォルニア出身で現在東大の博士課程に在学中。学業の傍ら、戦後の東京復興論に付いての調査しており、今回その話をしていた。

今回は初めて英語での話し合いであった。

（大空襲）

1945年3月10日未明の東京大空襲は、一夜にして10万人もの死者を出し、東京の下町の大部分が焦土と化した。このとき飛来した戦闘爆撃機B29から投下された焼夷弾の凄まじさには筆舌に現せないもので、男女の判別がわからないまでに焼き尽くした修羅場とし、そしてその後片付けがどんなに悲残なものであったか。

これらについてMr.カラカスは、自分の足を使って一つ一つ事実を確認してきて、機会があると戦争のもたらす悲残さについて訴え続けている。この姿勢に、一同感動させられた。

一方、被害者である日本人はというと、戦後60年以上経た今では、このときの遺体の埋葬場所について都の関係者が聞かれて答えられなくなってきているとの指摘もうけ、風化してきいる事実も知ることになった。

（ターボチャージャ）

B29戦闘爆撃機には、当時の最新技術が結集されており、その中にターボチャージャ技術があった。今でこそ、一般自動車にも応用されたいが、この技術があったことで高度1万メートルの飛行を可能にし、従って地上からの高射砲を寄せつけなかったこと、また広島原爆を投下に使われたB29エノラゲイは広島原爆を投下させることが出来た。戦争は人間の残酷を生む結果となるが、同時に技術を発展させてきた証左でもある。

東京大空襲を経験した日本人よ、もっとしっかせいと指摘された
ようなサロンであった。

次回 2004年1月21日 (水)
(福士記)

[2003年11月19日\(水\)22時16分](#) [この記事のURL](#) [Event](#) [admin](#)

Script : [Web Diary Professional](#)

(C) 2003-2013 The Japan Society of Professional Engineers/All Right Reserved. E-mail: webmaster@jspe.org